

「(仮称) 地域農業戦略指針」について

1 目的

水田農業を取り巻く状況が大きく変化する中で、持続性・発展性のある地域農業と活力ある農村集落への再構築を図ることを目的に、集落自らが、現状・課題を認識し、地域の実情に応じた農業・農村の目指す姿を描き、そこへ到達するために戦略的に活動ができる指針を作成する。

2 背景

- ・米価の低迷により、水田農業の担い手の収益性が悪化
- ・生産調整など国の農業政策の見直し
- ・農家の減少・高齢化、土地持ち非農家の増加により、農業を通じた集落機能が低下
- ・農道、水路等の管理など、担い手の負担が大きくなり、地域との連携・協力なしには経営安定・規模拡大が困難
- ・集落営農組織では、構成員の参画意識の希薄化

3 基本的な方向

- ・これまで培ってきた集落営農などの集落を基礎とした取り組みを活かすとともに、農業・農村の多面的機能の保全を図るという観点から、集落を舞台に、担い手、小規模農家、地域住民等が互いに支え合い、地域農業の持続・発展と農による地域再生を目指す。

4 指針の性格

- ・関係者が地域農業の現状・課題を踏まえ、地域の将来の方向性を見だし、戦略的に集落を指導・支援するのに役立つ指針
- ・集落自らが地域農業の方向性を決め、戦略的に実践するのに役立つ手引書

5 構成・主な内容

- (1) ビジョン編 → 地域農業・集落の将来を見つめ直す必要性、集落が目指す農業・農村の方向性を示す
- (2) 実践編 → 集落の現状と課題を認識し、今後の目指すべき姿を描き、集落で合意・実践する手法を示す。
(集落の活動・実践に役立つ具体例を豊富に掲載)

6 経過・今後の予定

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 平成25年度 | 集落営農等実態調査 |
| | ・267集落の聞き取り調査により集落、地域農業の課題を把握 |
| 平成25～26年度 | 普及指導員等によるワーキングチーム |
| | ・優良事例調査、学識経験者の意見聴取 |
| 平成27年1月 | 市町・JAとの意見交換 |
| 平成27年3月 | (仮称) 地域農業戦略指針完成 |

(仮称)地域農業戦略指針作成の背景

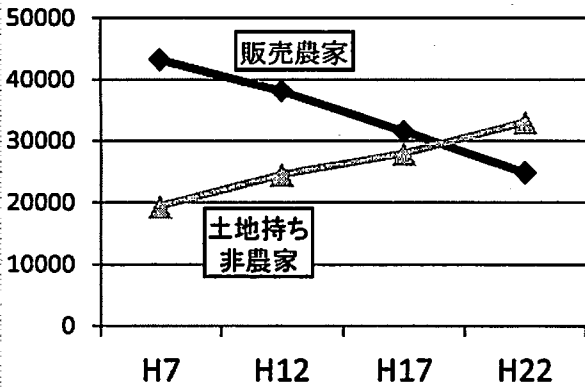
農業を取り巻く情勢の変化

- ◎米価の低迷により、水田農業の担い手の収益性が悪化
- ◎生産調整など、国の農業政策の見直し

〔平成25年度 集落営農等実態調査等より〕

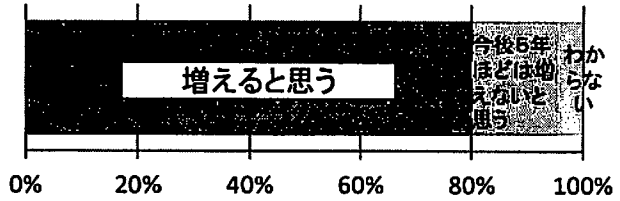
①農家数の推移

〔農林業センサスより〕



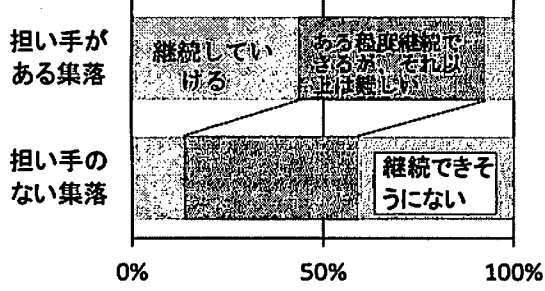
◎農家数が減少し、土地持ち非農家数が販売農家数を上回る。

②今後、集落内で農業をやめられる、あるいは、規模を縮小される農家



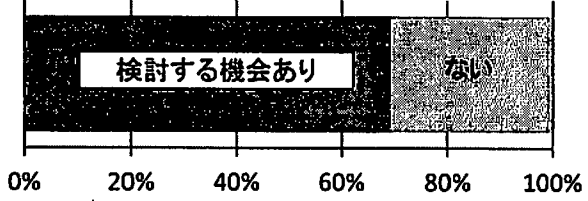
◎今後、集落内で農業をやめられる、あるいは、規模を縮小される農家は、増えると思う集落が80%

③今後、農家が少なくなってきた場合、集落の農業の維持・継続できるか



◎中山間地域などの担い手がない集落では、「現在の集落の農業を継続できそうにない」が41%

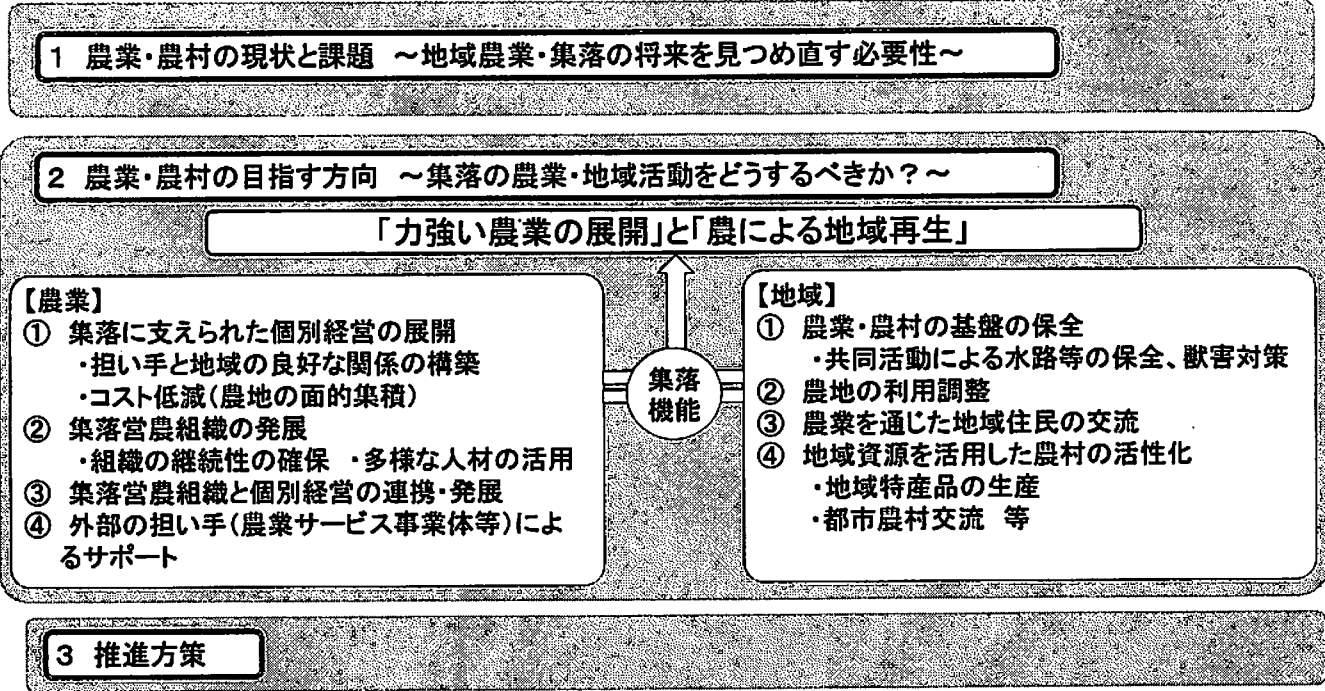
④農業のことを含めて集落の将来について考え検討する機会



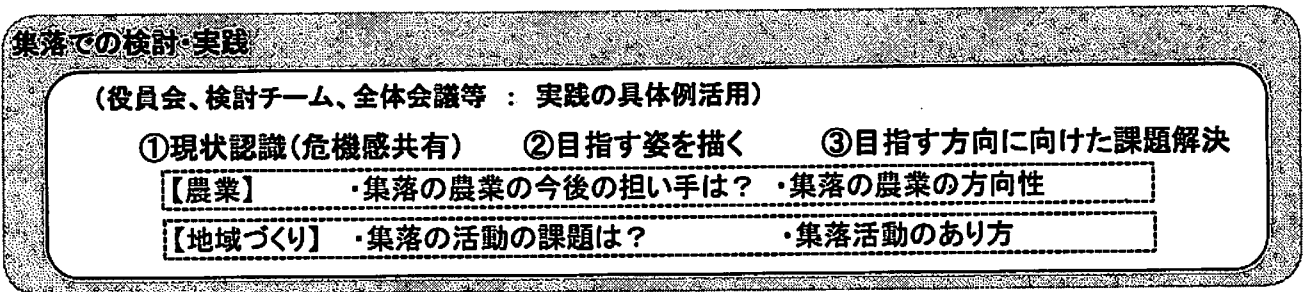
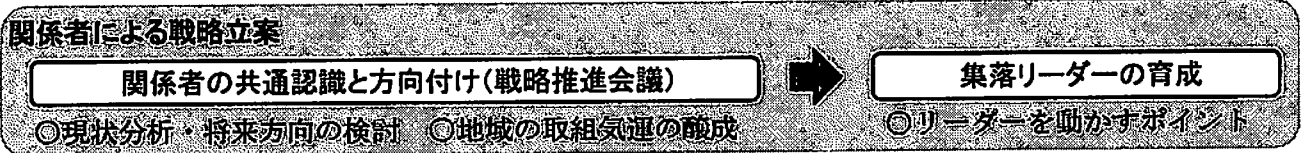
◎農業のことを含めて集落の将来について検討する機会がある集落は69%

(仮称) 地域農業戦略指針の骨子 (案)

I ビジョン編 ... 地域農業・集落の将来を見つめ直す必要性、集落が目指す農業・農村の方向性を示す



II 実践編 ... 集落の現状と課題を認識し、今後の目指すべき姿を描き、集落で合意・実践する手法を示す



【実践の具体例】 ... 集落の活動・実践に役立つ具体例を豊富に掲載

- 集落の状況に応じた目指す方向と課題解決の手法
(担い手への農地のまとめ方、集落営農組織の発展の仕方 など)
- 優良事例の優れた点と成功のポイント
- 集落の現状把握、合意づくりのツール など